

令和6年度 園評価の結果について

学校法人 北邦学園

認定こども園札幌自由の森幼稚園・保育園

令和4年度に実施した認定こども園札幌自由の森幼稚園・保育園の自己評価の結果の概要は、次のとおりです。

建学の精神 「自然から学ぶ」

1 本園の教育保育目標

◎ 思いやりのある子 ◎ たくましい子 ◎ 考える子

【各年齢・年間のねらい】

- 0歳児 一人ひとり安心してゆったりと過ごし、保育教諭や友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ
- 1歳児 保育教諭や友達に親しみをもち、自分の思いを表現して遊ぶことを楽しみ、のびのびと体を動かす
- 2歳児 (くるみ) 色々な事に興味関心を広げ自分なりの意欲や満足感を感じながら、色々な事に興味関心を広げ、友だちと一緒にのびのびと活動する事を楽しむ
(たんぽぽ) 保育教諭や友達に親しみをもち、様々な活動への興味関心を広げ、自分らしさを発揮しながらのびのびと遊ぶことを楽しむ
- 3歳児 様々な遊びや活動に興味をもつ中で、自分の気持ちや考えをのびのびと表現しながら友達と一緒に遊ぶことを楽しむ
- 4歳児 様々な活動の中で、友達と一緒に遊ぶことや表現することを存分に楽しみ、気持ちや考えを伝え合ったり、受け止め合ったりしていく
- 5歳児 活動に見通しをもって取り組み、共通の目的に向かって様々な友達と協力したり、互いの気持ちや考えを認めあったりしながら活動することへの充実感を存分に味わう

自己評価	各学年のねらいに対する評価内容
「A」	<ul style="list-style-type: none">・一年を通し、その時期の子どもの育ちを大切にした上で、年間のねらいを意識しながら保育に当たることが出来た。・一年間を通して子どもたち一人ひとりに寄り添った援助を行っていく事で、子どもたち自身で関わる姿が増えた。・年度末現在の子どもの姿と照らし合わせてみると、ねらってきた心の成長が感じられ、目標としてきた成長段階に達することができた。

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

目 標	計 画（具体的な取組方法）
<p>1 「主体的な遊び」を引き出すため、保育環境の整備や構成の創意工夫</p> <p><環境構成の充実></p> <p>【自己評価】</p> <p>「A」</p>	<p>☆年齢や育ちに適した玩具や環境作りの工夫と見直しの継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点検・工夫が一時的ではなく定期的に行う習慣の定着 ・自由遊び時には、個々の主体性を大事にした援助のための職員の人数確保 ・危険に対する考え方の共有 <p>☆絵本の環境についての工夫～研究保育を通して～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「もりのとしょかん」「えほんのおうち」の継続的に楽しめるような工夫 <p>☆積極的な研修の参加による、主体的な保育についての理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の自然環境を如何に安全に学びに活かすことが出来るかの職員での共有 ・危険察知・危険予測能力の向上による主体的な保育の向上 <p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実践活動を通じながら、玩具の入れ替えや環境の見直しを図った。特に、研究活動として取り上げ、環境構成を考える事ができた。 ○絵本環境については、読み聞かせ会への参加等を通じ、読み聞かせの大切さを体感し、日々の保育に取り入れている。 ○研修を通して、いちいの保育を常に意識した主体的な子どもの育成に努めてきた。 ○研修を重視し、教職員のキャリアアップを目指した。
<p>2 保護者理解と連携の推進</p> <p><保護者との相互理解></p>	<p>☆コドモン配信について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンでの閲覧、欠席連絡の使いやすさについての保護者からの好評の声があるため、より使いやすい様に継続 ・従来の紙対応への配慮 ・感染情報の継続配信 ・早期配信と再配信の実施 ・見やすい画面構成の工夫 ・写真付きのブログ配信の見やすさ工夫 ・連絡帳内容の充実 <p>☆保護者との信頼関係について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事及び保育活動の保護者への完全公開、参観・参加 ・コドモン配信・参観日・親子レク・ブログ配信・園だよりでの連携 ・電話連絡での密な連携 ・対面での会話 ・行事への参加呼びかけ

<p>【自己評価】 「A」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マザーズファザーズデイの実施 ・園バスの安全運行 <p>☆地域の信頼確保と連携・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園だよりの送付による地域との連携強化 ・保護者・職員への交通ルールのさらなる徹底 <p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コドモンを活用することにより、仕事の軽減や迅速な連絡体制を確立できた。より理解されやすい配信に心がけ、保護者との信頼関係づくりに努めた。 ○参観日等での直接対話や電話連絡も活用しながら、各クラスのブログ配信にも努め、保護者との連携を図ってきた。 ○地域の中の“こども園”として信頼確保に努めているが、より地域に開かれた「こども園」を目指したい。 ○町内会及び小中学校との連携の強化のため更なる交流を模索していきたい。
<p>3 職員の業務改善の推進</p> <p><働きやすい環境づくり></p> <p>【自己評価】 「B」</p>	<p>☆対話の場を効果的に設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員間の業務に対するカバー意識を高め、話しやすい環境づくりの確立 ・シフト調整への理解と協力 <p>☆業務削減や時間の使い方の意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力体制を明確にし、お互いに時間短縮に努めること ・職員同士のコミュニケーションの広がり場の確保 <p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員同士の気さくな声掛けにより一体感の醸成に努め、働きやすい職場づくりに努力した。 ○職員同士の連携により効率よく仕事を分担しながら業務の軽減を図り、定刻退勤を目指して努力した。 ○シフト制を実施し、勤務時間の明確化を図っているが、シフトに偏りがあり早番・遅番の調整に苦労した。

<p>4 安全管理・危機管理の視点での環境・物品整備の継続</p> <p><安全を重視した園内体制づくり></p>	<p><命を守る基本的な安全管理、環境整備や子どもへの働きかけを継続する></p> <p>☆コロナ・RS ウィルス・手足口病等の感染症予防対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日、園で感染状況の現状を把握し、発信することにより、家庭及び園での予防に対する意識向上 <p>☆防災・防犯への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な防災及び防犯訓練 ・消防・警察署等との連携 <p>☆園バス運行の安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務としてのマンネリ化予防対策と注意喚起 ・添乗者と運転手の連携を図りつつ、お互い緊張感を持って対応し、最終確認の徹底 <p><安全管理と主体的に遊べる環境を目指した園舎内外の環境整備></p> <p>☆園舎内外の環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの日々の確認と意識 ・子ども達が主体的にのびのび遊ぶ環境づくり ・子どもの安全意識の向上を目指した働きかけ ・子どものためのバリアフリー対策への取り組み
<p>【自己評価】</p> <p>「A」</p>	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定期的に園内消毒を行い、毎日の感染状況を配信し保護者と連絡を密に取り、協力を得ながら感染の広がりを押さえる事ができた。 ○不測の事態に備え、避難訓練・不審者に備えた防犯訓練を計画的に実施することができた。 ○園バス運転者への安全運転を日々呼びかけ、注意喚起を行う事ができた。 ○職員全員が常に危機管理意識を持ち、子どもたちの安全のために見守り、声掛けを行い、事故の未然防止に努める事ができた。 ○森の環境を含め、施設設備の老朽化への計画的対策が必要となってきた。

3 今後取り組むべき課題

課題	課題設定の理由
<p>① 「主体的な遊び」の充実のための、保育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・玩具の選定や環境作りについて、子どもの育ちを見取り、それに合わせた見直しや工夫の頻度をあげ、常に試行錯誤できるようにする。 ・様々な保育環境が各年齢の成長段階や子ども一人ひとりの成長に繋がるものとなっているかについて、職員間で意見を出し合う機会を設けられるようにする。

<p>の創意工夫や、 保育教諭の援助の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自由遊び時には、子どもたちが遊びを選択し主体的にのびのびと遊びを広げられるための適切な保育教諭の人数について考える ・子どもたち一人ひとりの思いの受け止め方、やってみたい気持ちの実現ができるような保育教諭の援助について工夫する。 ・環境構成の創意工夫や保育教諭の援助の工夫のために、子ども理解を深められるような対話の場を十分に設ける。
<p>② 保護者と園の相互理解の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対する保育の見える化を工夫し、保護者連携の充実に繋がるよう努める。 ・今後も常に保護者理解の視点に立つことを忘れずに、より相互の考えが伝わりやすい発信と対話を大切にする。 ・保護者が積極的に園に足を運んでいただけるような機会を多く設ける。
<p>③ 職員の業務改善のさらなる推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の強みを活かし、互いに補いながら行動することで、助け合い、一人ひとりの負担感を減らし、円滑に仕事が進むようにする。 ・職員が主体的に意見を出し合い行動することで、必要な業務と削減できる業務について考え、保育の質を下げずに業務改善を進める。 ・学園としての業務削減プロジェクトの目的を共有し、的確に実行し、定時退勤を目指す意識をさらに高める。 ・業務改善の取り組みを続けてきたことで、保育の質の向上のために大事にしてきた保育観の認識等に職員間でずれがおきないように、保育内容や子どもの育ちについての対話の時間を少しずつでも定期的にとり、共通理解できるようにする。